

中部病院長よりあいさつ

院長 吉田 徹

生活資源の一つとして有効活用して頂きたい

今年も天候不順が続いておりますが、中部地域の皆様におかれましては、それぞれの健康管理に気をつけて頂きたいと思っております。5/8から新型コロナウイルス感染症（以下COVID-19）は感染症法上5類に移行され、社会はCOVID-19流行前の生活に戻りつつありますが、ウイルスの感染力が変わったわけではありません。当院は面会禁止から制限へと緩和しておりますが、病院内には感染に対する抵抗力が低下している患者さんが数多く入院しております。病院内に入館される際の基本的感染対策の遵守には引き続きご協力いただきたいと思います。COVID-19は、インフルエンザと違って症状が発現する前から感染力があることが問題ですが、日常的な感染対策の励行と病院に出入りする地域の皆様の意識向上によって感染の拡大を最小限に抑えて当院の病院機能を維持して参りたいと思っております。コロナ禍で人との繋がりが制限される期間が長く続きました。病院職員が地域へ出かけて行っていた出前講座や院内ボランティア活動も制限されておりましたが、今年度より段階的に再開しております。今年度は中部病院祭も11月に開催する事を決定し院内実行委員会を立ち上げて様々な企画を検討中です。病院職員が地域の皆さんと診療以外で接する場を持つ事で、中部病院をいろいろな角度からご理解いただき、地域の皆さんの生活資源の一つとして有効活用して頂きたいと思っております。達増知事は、「県民の幸せ実現」を岩手県民計画(2019-2028)の大きなテーマに掲げています。幸福度を高める要素は数多くありますが、健康はその重要な要素の一つです。中部地区の命と健康を守るためには地域の皆様のご協力も必要です。これからも地域の幸せ実現に向けて職員一丸となって努力して参りますので、今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

【メニュー】

- 中部病院長よりあいさつ
- PET/CTとは？ 当院導入の医療機器
- 面会制限への緩和について

中部病院だより

7月号

令和5年度

第1号

PET/CTとは？ 当院導入の医療機器

PET検査とは、放射能を含む薬剤を用いる核医学検査の一種です。ブドウ糖に似た放射性医薬品

(FDG)を体内に投与し、特殊なカメラで体内から出た放射線をとらえて画像化します。がん細胞の活動のエネルギーの元はブドウ糖で、正常細胞の何倍ものブドウ糖を取り込みます。体内に投与されたFDGは、がんの病巣に集まり、そこから放射線が多く放出されます。それを捉えて画像化することにより、病巣を見つけることができます。PET検査では、通常がんや炎症の病巣の有無や、腫瘍の大きさや場所の特定、良性、悪性の区別、転移や治療効果の判定、再発の診断などに利用されています。アルツハイマー病やてんかん、サルコイドーシスを調べるのにも利用されています。当院にはPET-CT装置が設置され、PETにCTを組み合わせることで病巣の場所や形状を精度よく検査することができます。

CTやMRIなどの画像検査では頭部、胸部、腹部などと部位を絞って検査を行いますが、PET検査では全身を一度に検査できます。検査薬は高価であり、放射能の半減期が110分と非常に短いため、お一人様ずつの注文になります。以上の事から時間に余裕を持ってご来院ください。

薬品の性質上、検査直後は体内から放射線が出ている状態になりますので、御帰宅の際は人込みを避けて帰るようお願い致します。



撮影画像



PET-CT本体



機器操作室



面会についてお知らせ 『面会制限』へ変更致しました

これまで禁止としておりました面会が、令和5年6月5日(月)より制限付で可能となりました。

- 面会時間 14:00～16:00 月～金曜(休日・休診日以外)
- 面会者 ご家族、親しい方 2名まで/1回の時間 15分以内

※詳細は上記QRコードリンク先(ホームページ)でご確認ください。



岩手県立中部病院

Iwate Prefectural Chubu Hospital

制作 地域医療福祉連携室

住所 岩手県北上市村崎野17地割10番地

電話 0197-71-1511 FAX 0197-71-1414

代表メール ea1013@pref.iwate.jp

URL <http://www.chubu-hp.com/>